

もったいない！未来のために  
母の視点で **よりも** で見直し  
次世代に借金、リスクを残さない

県議会議員

西村久子 県政報告

第16号

発行 西村久子

彦根市甲崎町

TEL・FAX 43-4700

Eメール hisako@country-farm.net



## 今日よりも明日

雷を伴って雨の降り方が次第に激しくなりました。梅雨明けもまもなくのことでしょう。国政も解散総選挙が近づいています。経済対策と声高に叫ばれながら、はっきりしない政情はお天気にも似ているようです。この報告書が届く頃には、ぐずぐずとした梅雨も明け、日本の方向もはっきりと示せるようになっていて欲しいですね。

琵琶湖の状況は、環境環境とやかましく言われる割には改善が進んでいません。彦根旧港灣の藻の状態、本県漁獲量よりも多くの魚を食べる鵜の繁殖、神上沼にびっしりと繁茂したナガエツルノゲイト、そして水質、毎日見ている琵琶湖の底深く不気味な地球温暖化の弊害があちこち顔を出そうとしています。

滋賀県だけの力で琵琶湖を守りきれません。上野・藤井代議士を中心に県選出自民党国会議員により「琵琶湖再生法案」が提案され自公与党協議を終えたものの、野党協議で受けてもらえず、このままでは滋賀の願いが成就しません。大切な琵琶湖のために一刻の猶予も無く、この法案制定に向け党派を超えての努力を願うものです。



## 平成21年6月定例議会（抜粋）

## 湖政会

地域活性化・経済危機対策臨時交付金・・・4,717,585 千円

1. 安全・安心の実現への対応（県立施設長寿命化への対応他）
2. 地球温暖化対策への対応（住宅太陽光発電導入支援対策補助事業他）
3. 少子高齢化社会、特別支援教育等への対応（不妊治療費助成事業他）
4. 新型インフルエンザ等による地域経済の悪化への対応  
（観光産業の影響等への対応他）

国からの県内同臨時交付金

総額 7,228,978千円  
その内彦根市への  
交付金額 368,250千円  
が交付されます

地域活性化・公共投資臨時交付金・・・3,000,000千円

1. 事業への充当（土木単独公共事業費・特別支援学校教室不足解消の建設費他）

近江八幡市と安土町合併議案 可決

- ・新市名 近江八幡市
- ・廃置分合予定日 平成22年3月21日
- ・合併方式 新設合併
- ・新市の人口 約8万人 面積177平方キロメートル…が誕生します。

## 備えよう！新型インフルエンザ

とっても簡単  
とっても大切

◇今秋～冬に予想される第二波に備えて

ポイント

今から準備 ①手洗い・うがい・マスク ②食料品等の備蓄 ③情報収集

発生したら ①手洗い・うがい・マスクの徹底 ②不要な外出の自粛

発症が疑われたら ①保健所に相談 ②指示された医療機関へ受診 ③咳エチケット・他の人にうつさないために

◇強毒インフルエンザに  
備えてマスクの備蓄を

北里大学北里研究所の抗ウイルス性能試験において99.9%ウイルス除去性能を証明された「モースガード」があります。感染流行の波は、約2ヶ月予測され、1人2か月分の備蓄が必要といわれています。



# 一般質問

## 自殺をとめることについて・・・健康福祉部長にお聞きします。

3万2,249人・・・これは平成20年の国内における自殺者の数であります。消えてしまいたい。死にたい。・・・2年連続してうつ（鬱）がトップを占めていると公表されております。いろいろな原因があつてうつになり自殺に至った事が伺い知れる時には、如何してあそこで気持ちが落ち着くようにしてあげられなかったのか、少しは係わっていながら、それを止められなかった事にいたたまれない後悔にさいなまれます。

健康問題が理由であっても、家族には薄々それらしきことは分っていないながら、それでも自殺させてしまう隙を与えてしまったことを、これまた自戒の念から抜け出せないで、攻め続けられる姿を見るに、おろおろするばかりです。

自殺対策基本法が2006年制定され、自殺、うつに対する国民的関心が最近になって向けられてはきましたが、厳しい社会情勢と相まってその数は増加の一途であることは、大きな問題であります。

自殺された方は、たいていの人が責任感の強い、我慢強い、他人に相談できない完ぺき主義と見受けられますし、その壁を崩さない限り、難問から逃れるすべはありません。人に相談できない体質の改善や、弱音を吐いてもいいんだよ・・・と他人にSOSを発し又それを受け入れられる社会や意識づくりが必要に思います。

医師からうつらしいと注意を促されているながら、精神科医にかかる前に自殺されてしまい、残された家族は何が悪かったのか戸惑うばかりです。受診する必要は感じながらもスムーズに受診できない状況があった。そこに何等かのサポートが必要では・・・と考えるのです。兆候に気づきながら、その一時が遅れ間に合わなかった。薄々危険を感じていたのに、それが今だ、とは感じなかった。全て取り返しがつかなくなってからのことです。

心理学を学びカウンセリング技法を身につけた産業カウンセラー、子ども達に対応するスクールカウンセラーは、よく耳にするところですが、家庭において秘め事のように問題を抱え悩んでおられる方々へのカウンセラーの必要をつとに感じます。

自殺をする人はその直前にかなりの割合でうつ病にかかっていることが指摘されています。ところが、実際には、うつ病として精神科に通院し治療していた人は、むしろ少数であるとも言われています。

### 1. 身体症状を訴え一般診療科を受診し、うつ病が疑われ精神科の受診を勧める必要がある場合の、一般診療科からの精神科への紹介の取り組みに対する県の考えをお聞かせください。

自殺予防を目的に電話相談を行っているNPO法人「滋賀いのちの電話」が相談員養成講座の受講者を募集しておりますが、24時間毎日の相談を拡充するには最低100人は必要で人材は足りていないと聞きます。

相談員養成講座事務局に問い合わせしても日曜日11時～午後8時までと、ガイダンスが流れる実態であります。いのちの電話そのものにあつても、「日曜日12時～20時までです。改めておかけ直してください。」と声が流れます。命の瀬戸際にある人の対応が、このようでは、思いを引き止めることは出来ません。どのように受け止めておられますか。

### 2. 深刻な悩みを抱えておられる人への相談について、現状と課題をお聞かせください。

今回、地域自殺対策強化基金事業が提案されております。国からの交付金で積み立てる1億3,700万円の基金の内、本年度取り崩して事業展開するものに3,528万7,000円、21～23年度事業というものの、多額を基金に残していることは、悩んでいる人の命のかかっていることであり、余りにもの

んびりし過ぎていると考えるものですが、如何でしょう。ただ使えばいいというものでなく、もっと積極的に自殺防止対策に至急に取り組んでいただく必要があると思います。本人は勿論、家族をはじめ、とりまく人々のその後に大きな禍根を残す自殺を防止する事に、緊急積極的な対応を願って、



### 3. 本年の取り組みとさらに取り組みを拡大することについて質問します。

#### 自殺をとめることについての3点のご質問についてお答えいたします。

1点目に一般診療科から精神科への紹介についての考え方でございますが、大津市内では、一般診療科においてうつ病の早期発見につとめ、早期に精神科医に紹介する大津G-Pネットの取り組みが始まっております。

うつ状態、うつ病になると、体の不調を訴え、一般診療科を受診されることが多くなります。そこで、一般診療科の医師が、うつ病を視野に入れて診療され、精神科の専門医と連携することが重要となります。

大津市以外においても地域の実情に応じて、うつ病患者の早期発見・早期治療の紹介・連携の取り組みを広げていかなければならないと考えておりまして、このための講演会や研修会を行っているところでございます。

2点目に悩みを抱えておられる人の相談の現状と課題についてでございますが、自殺を考えると追いつめられている方の相談窓口といたしまして、NPO法人滋賀いのちの電話が昨年8月に開設され、日曜日の正午から午後8時まで相談に応じておられます。

相談件数は、昨年8月から今年3月までで、合計211件となっております。開設当初の8月はひと月で16件でしたが、この3月には39件と増加している現状となっております。この相談窓口を運営される団体と意見交換をしているところでございますが、件数の増加に対応する相談員の増員が課題となっております。と伺っております。

この尊い献身的な取り組みに感謝いたしますとともに、相談員を養成する講座の受講生募集の広報協力、こういうことをはじめといたしまして、電話相談の運営にできる限りの支援を行っていきたくと考えております。

3点目、本年度の取り組みと取り組みを拡大することについてでございます。

今回の補正予算案では、基金を活かしまして、自殺防止のための事業に取り組みさせていただきたいと考えております。

具体的には、自殺予防の気づきや見守りを促すような啓発、次に大変難しいことではございますが、自殺の実態や原因の調査、また、自殺防止のために適切な対応を行う人材の育成、先ほど申し上げました、電話相談など団体の事業に対する支援、そして、市町が実施される自殺防止に関する事業への支援などでございます。

300人を超える、県内の自殺による死亡者ということを深刻な状況とふまえました上で、この3年間、基金をぜひとも有効に活用し、自殺を考えている人を、一人でも多く救えるよう、スピード感をもって取り組まなければならないと考えております。

自殺対策の取り組みを健康問題の視点に加え、経済問題、社会問題、生活問題なども含め幅広いものとし、市町、関係団体の皆さんと協力の輪を広げ、着実に取り組みを積み上げてまいりたいと思います。

※他に、芹谷ダム中止について・・・産業としての農業を継承するために・・・荒神山少年自然の家の存続を願って・・・やったら得するPTA活動にするには・・・を質問しました。

## 西村久子事務所

彦根市甲崎町19-1 (稲枝北駐在所より西へ約100m 南側道路沿い)  
定例政調会 第1金曜日 午後7時～10時

ご意見を  
お聞かせください。 Tel 0749-43-2020 Fax 0749-43-4700

### 湖政会・西村久子ホームページ(ブログ)

湖政会  
<http://koseikai-shiga.net/>  
湖政会・西村久子 活動日記  
<http://nishimura-blog.koseikai-shiga.net/>

